

「電気のふるさと」電源地域ニュース」では、電源地域のさまざまな取り組みを紹介しています。このコーナーでは、読者の皆様から寄せいただいたご意見・ご要望を積極的に誌面に反映させて参りますので、皆様の地域で取り組んでおられる事業や施策をぜひご寄せください。巻末にご返信いたします。ハガキも活用ください。心よりお待ちしております。

新潟

第9回「越後よしかわ酒まつり」を盛大に開催！
～地域の酒米、杜氏の伝統文化で地域資源の再認識と情報発信～
新潟県 上越市吉川区

新潟県上越市は海や山の自然に恵まれ、昔から農耕文化が発展してきた地域です。吉川区は、新潟県最大の酒米産地であり、江戸時代末期から造り酒屋が多く出現し、繁栄してきました。豪雪地が冬季の出稼ぎを助長し、県内でも最大の越後杜氏を輩出する町です。

「越後よしかわ酒まつり」は、このような杜氏の文化を傳承しようと11年前、「酒シンポジウム」を2年続けて開催したことに端を発します。酒文化の継承について熱心な議論が重ねられ、平成10年に第1回の酒まつりを開催しました。以来、毎年10月初旬に盛大なお祭りが行われています。



会場ステージでは酒造りの工程と苦労を唄った「酒造り唄」が披露された

10月1日、今年も初秋の爽やかな天候のもと、会場となった「道の駅 よしかわ杜氏の郷」には各地から多くの方が訪れ、酒文化に係る多彩なイベントが開催されました。中でも愛飲家にはたまらない、全国の銘柄200種類を試飲できる「全国銘酒さき酒会」は、大盛況となりました。

吉川区は自然の宝庫です。酒造りは丸ごとよしかわ地域産にこだわり、米は地元産山田錦、水はブナ林の湧き水、杜氏は地元小池杜氏と、三拍子揃っており、品質を第一に生産しています。

「よしかわ杜氏の郷」は、地域の歴史を伝える情報発信基地、農畜産物の販売基地として親しまれています。来年の10回開催を目指して「酒の町・よしかわ」を今後も大いにPRしていきます。

(電源地域産業育成支援補助金活用事業)

お問い合わせ先
越後・よしかわ杜氏の郷
TEL 025 - 548 - 2331

福島

第13回「ひろの童謡まつり」音楽祭を開催
～新たな童謡を地方から発信～
福島県 広野町

福島県広野町は、海・山・川の美しい自然に恵まれ、その風景は「とんぼのめがね」「汽車」といった童謡・唱歌の舞台として人々に親しまれてきました。

童謡祭、童謡コンクールといったイベントは、毎年各種開催されていますが、そのほとんどは首都圏に集中しており、地方で開催されるものは数少ないというのが現状です。「もっと地方が主体となり発信する童謡祭があってもいいのではないか」という考えから、広野町では平成6年から「童謡まつり」を開催してきました。平成14年まで全国から童謡詩を「課題の部」と「自由の部」として募集し、それぞれの優秀作品には社団法人童謡協会の作曲家の先生により曲を付けていただき、これまで「ひろの」から新しい童謡19曲を生み出すことができました。



ひろの発の新しい童謡やお馴染みの童謡を会場全員で歌う

また、平成10年からは歌唱コンクールをあわせて行い「ひろの童謡まつり」音楽祭として実施。今年は10月16日に開催されました。当日は、課題詩の優秀作品9曲を含め、28曲の童謡を広野童謡大使の眞理ヨシコさんや地元広野町出身の吉田夏子さんなど、童謡歌手の皆さんと郡内の小・中学生、コーラスグループが披露し、来場者も一体となった心とむコンサートとなりました。

(電源地域産業育成支援補助金活用事業)

お問い合わせ先
広野町公民館
TEL 0240 - 27 - 3244

福井

「農村力」あふれる元気な町へようこそ！
～人と社会の「あたりまえ」を残そう～
福井県 池田町

福井県池田町は、九頭竜川水系 足羽川の水源地域に位置し、人口約3,500人の町です。町土の91.7%が山林であり、盆地地形のなかで農林業を基盤とした生活が営まれています。また、高齢化率は36.9%と県内第一位となっています。

いわゆる条件不利地域にありますが、「顔の見える大きさ」が団結力につながり、住民は元気で、行政と一体となったまちづくりを進めています。

特に、町独自の有機農産物推進運動「ゆうき・げんき正直農業」、生ゴミ回収NPO法人「環境Uフレンド」による「食ターナー事業」と「土魂壤」の開発、少量多品目生産で育てられた各種の農産物を9坪で年間1億円を売り上げた町のアンテナショップ「こっぽい屋」などが知られており、こうした取り組みが高く評価され、平成18年1月には自治体環境グランプリで環境大臣賞を受賞しました。

視察に訪れた方から「成功している一番の要因は何ですか」と聞かれますが、私たちは、「あたりまえ」が土台にある暮らし」と答えています。すなわち、
・隣同士で「助け合う」相互扶助の心
・「資源として生かす」もったいない精神、手間をかけて「物をつくる」匠の技
・自分の地域は自分で育てる意欲などがあげられます。

こうした農村の魅力(=農村力)は、「人と社会を治療する力」とも言え、これからの社会づくりや人づくり、観光・ホスピタリティ、教育・福祉にも応用していけると考えています。

「お金の額」「規模の大小」を追い求めるのではなく、「農村力」を生かす取り組みを進めると同時に、これを社会全体に広げることが、「あたりまえ」を取り戻し、いじめ問題や社会の格差等を解決していくことにつながるでしょう。

池田町は、これからも地域の人とモノ(資源)、コト(文化)を生かしながら、農

村力を発揮して、日本農村力デザイン大学や百匠一品プロジェクトなど、ますます元気な地域を目指したまちづくりを進めていきます。是非一度、農村力あふれる池田町へお越しください！

池田町の環境事業の詳細はこちら
<http://ecoikedajp/> (池田町ホームページ)

日本農村力デザイン大学

平成17年度から開講している「日本農村力デザイン大学」は、正規の大学ではありませんが、学生が「農村の価値=農村力」を学び、これを生かすデザイン力を身につけることを目指す学びの場です。現在、群馬県から福井県まで幅広い地域の学生が参加しています。

百匠一品プロジェクト

農村力デザインの考え方は、まちづくりだけでなく地域の振興にも生かされています。主力商品の米については、「生命に優しい米づくり運動」として全量を特別栽培米とすることを目指して取り組み、生産された米は「百匠一品」として販売しています。「百匠一品」とは、「地域の粋と匠」を届けるブランドであり、お金の価値向上だけでなく、食べ物を育てる人の心を伝え、食べる人とつくる人の安全・安心、田に住む生き物の保全など、社会的・文化的価値を向上させるプロジェクトです。



福井市内にあるアンテナショップ「こっぽい屋」で販売される池田町産の「百匠一品」の新米

お問い合わせ先
池田町 振興開発課
TEL 0778 - 44 - 8004

いきいき電源地域

地域振興に取り組んでいる
電源地域の元気な姿を紹介します